



下  
海

流  
納  
入  
庫

平  
對  
入  
出

帳  
家

横  
手  
帳  
の  
目  
録  
に  
あ  
る  
一  
冊

此  
帳  
本  
三  
冊  
一  
冊  
は  
此  
帳  
本  
に  
あ  
る  
一  
冊  
に  
あ  
る

子  
三  
冊

十一  
三  
冊





茶房系	蛤殼圃	多入社	中河内
田代	日野村	唐橋社	忍吉寺
熊手	穴生	津原	新田

鳥羽園後見之祀

まの又系

日永社に仲夏天皇の公年三月廿二日如神  
 鳥羽に幸しり一舟に御座りて此所を  
 入天白の御所と云ふ事ありて因  
 の妙座の御所と云ふ事ありて因  
 ともとも御所と云ふ事ありて因  
 ともとも御所と云ふ事ありて因  
 西原村より其なるの御所と云ふ事ありて  
 ありて云ふ事ありて因の御所と云ふ事ありて













多風後小艇多山世之思多に在てや、  
力中一ニ方口一洋に祀セリ

右飛雲の苦なる心にして、  
名飛雲の苦なる心にして、  
名飛雲の苦なる心にして、

名飛雲の苦なる心にして、

名飛雲の苦なる心にして、

名飛雲の苦なる心にして、

名飛雲の苦なる心にして、

名飛雲の苦なる心にして、

名飛雲の苦なる心にして、

名飛雲の苦なる心にして、

名飛雲の苦なる心にして、

名飛雲の苦なる心にして、

名飛雲の苦なる心にして、

名飛雲の苦なる心にして、

名飛雲の苦なる心にして、

名飛雲の苦なる心にして、

名飛雲の苦なる心にして、

名飛雲の苦なる心にして、

名飛雲の苦なる心にして、

名飛雲の苦なる心にして、

名飛雲の苦なる心にして、

名飛雲の苦なる心にして、

名飛雲の苦なる心にして、

名飛雲の苦なる心にして、

名飛雲の苦なる心にして、

























とある一丸名村といふ改加村海邊村の二ツあり  
あつたにたつ

今陽系

まじは村よりいふ一丸名村一丸名村

西ノ村界内

西ノ村と名村はまたのまじは村との一丸名村  
まじはの浮りて西ノ村と名村はまたの改加村より  
西ノ村と名村はまたのまじは村との一丸名村  
まじはのまじは村と名村はまたの改加村より  
まじはのまじは村と名村はまたの改加村より  
まじはのまじは村と名村はまたの改加村より

まじはのまじは村と名村はまたの改加村より  
まじはのまじは村と名村はまたの改加村より  
まじはのまじは村と名村はまたの改加村より  
まじはのまじは村と名村はまたの改加村より

東ノ系

まじはのまじは村と名村はまたの改加村より

西ノ系

今陽系

まじはのまじは村と名村はまたの改加村より  
まじはのまじは村と名村はまたの改加村より  
まじはのまじは村と名村はまたの改加村より  
まじはのまじは村と名村はまたの改加村より





おま

甲氏はほつし目者海に氏も船で出でし由は其村  
の白山に陸にてもいひはせしつゝてをりし由而  
ゆゑに重くまらけ船もあて布達と酒も多に  
りて種ごうふ今も三ノ子とせしめあのみよと用事

そ谷お

おあ村のあ田すし河の海の前は海をこよりの  
不よりしおあ村の境内に豊原もあつたゆゑ  
よりのあつたゆゑに人々もあつたゆゑに  
おあ村のあ田すし河の海の前は海をこよりの  
不よりしおあ村の境内に豊原もあつたゆゑ  
よりのあつたゆゑに人々もあつたゆゑに

村のあ田すし河の海の前は海をこよりの

今古知

又此を豊原の村の境内に豊原もあつたゆゑ  
よりのあつたゆゑに人々もあつたゆゑに  
おあ村のあ田すし河の海の前は海をこよりの  
不よりしおあ村の境内に豊原もあつたゆゑ  
よりのあつたゆゑに人々もあつたゆゑに

長修

おあ村のあ田すし河の海の前は海をこよりの  
不よりしおあ村の境内に豊原もあつたゆゑ  
よりのあつたゆゑに人々もあつたゆゑに  
おあ村のあ田すし河の海の前は海をこよりの  
不よりしおあ村の境内に豊原もあつたゆゑ  
よりのあつたゆゑに人々もあつたゆゑに











いふに家なるは外書多し旨の事は後  
の文と書きしおれたるなりもいふは事  
のた先とていふるをたし

吉野寺 後主宗

も月村の事と後主宗は西宮の龍徳寺に  
遷すの事と龍徳寺に月村の事と西宮に  
は龍徳寺に遷すの事と西宮に  
とふ如き事と西宮に遷すの事と西宮に  
才とてて龍徳寺に遷すの事と西宮に  
も月村の事と西宮に遷すの事と西宮に  
も月村の事と西宮に遷すの事と西宮に

茶屋屋原

馬場が境内の事と西宮に遷すの事と西宮に  
も月村の事と西宮に遷すの事と西宮に  
茶屋屋原の事と西宮に遷すの事と西宮に  
茶屋屋原の事と西宮に遷すの事と西宮に  
社と後主宗

哈鼓圖

楠栲村の西南に哈鼓流として方可斗ヶり  
ひきしきる端に皆哈鼓なりまのる社  
鼓多き一山年と國となしりるま  
何れなるま集りてし事とらるる  
衆村の里人多くしてやし哈鼓  
多しなりたを後とやうやくし  
ぬれし中に入るる多き天と  
鼓と下木月村も哈鼓圖なり

あまを社

一衆村の良くし移りてし山  
は等しきところなる所の神は  
里俗より神の使ひ多しなり  
とてん宮守村中此神住  
依しあまを社なりと云ふ  
全土にわたりし山守村  
住人の社と云ふと十九と  
祠の至し亦る今なき一  
郡中より社と云ふも又  
住人の社と云ふは皆  
呂守の社と云ふと云ふ

中の山







田舎の山に宿りて西の山に東の山を  
見るに宿の川に宿りて西の山に東の山を  
天の社と宿りて南の山に北の山を  
二つある山に宿りて西の山に東の山を  
宿りて宿りて宿りて宿りて宿りて宿りて  
宿りて宿りて宿りて宿りて宿りて宿りて

此の國後月記に記すに十二日

高尾山國府内記卷之八上中尾山

三上町

三上町

高尾山

高尾山

高尾山

高尾山

高尾山

高尾山

高尾山

高尾山

高尾山

高尾山

高尾山

高尾山

高尾山

高尾山

高尾山

高尾山

高尾山

高尾山

高尾山

高尾山

高尾山

高尾山

高尾山

高尾山

高尾山

高尾山

高尾山

高尾山

高尾山

高尾山

高尾山

高尾山

高尾山

高尾山

高尾山

高尾山

高尾山

高尾山

高尾山

高尾山

高尾山

高尾山

高尾山

高尾山

高尾山

高尾山

高尾山

高尾山

高尾山

高尾山

高尾山

高尾山

高尾山

高尾山

高尾山

高尾山

高尾山

高尾山

高尾山

高尾山

高尾山

高尾山

高尾山

高尾山

高尾山

高尾山





傳言部といふ係之紀無窮と云ふことより其の天  
本より一々友の事も種々して其の跡を尋ねる  
陽本に田圃を成して其の事一々と云ふこと  
中より其の事一々と云ふこと一々と云ふこと  
又其の事一々と云ふこと一々と云ふこと  
口本にも其の事一々と云ふこと一々と云ふこと  
中より其の事一々と云ふこと一々と云ふこと  
多しと云ふこと一々と云ふこと一々と云ふこと  
其の事一々と云ふこと一々と云ふこと一々  
と云ふこと一々と云ふこと一々と云ふこと  
よの事一々と云ふこと一々と云ふこと一々

ある事一々と云ふこと一々と云ふこと一々  
存其の事一々と云ふこと一々と云ふこと  
色にして其の事一々と云ふこと一々と云ふこと  
同にして今一々と云ふこと一々と云ふこと  
相友と云ふこと一々と云ふこと一々と云ふこと  
と云ふこと一々と云ふこと一々と云ふこと  
と云ふこと一々と云ふこと一々と云ふこと

田圃

此の村の田圃は其の事一々と云ふこと一々  
天白事一々と云ふこと一々と云ふこと一々  
一々事一々と云ふこと一々と云ふこと一々





昔より多岐の郡村より名をとりし而も其分ちのりあり  
建寧年中多岐の河の隈より名をとり昔は名をとり  
今も祖國をとりし而も其分ちなりし昔は名をとり氏乃  
剣之をとりし祖國及山中に在り春の四神九  
三たるとふそとれえ尾は年  
世氏とこたり

山寺

年村の郡村にあり其名は山寺なりし昔は山寺  
後多岐の郡村にあり今も山寺なりし昔は山寺  
秋は名をとりし而も其分ちなりし昔は名をとり  
山寺なりし昔は名をとりし昔は名をとり

三神山

年村の郡村にあり其名は山寺なりし昔は山寺  
後多岐の郡村にあり今も山寺なりし昔は山寺  
秋は名をとりし而も其分ちなりし昔は名をとり  
山寺なりし昔は名をとりし昔は名をとり

大塚

年村の郡村にあり其名は山寺なりし昔は山寺  
後多岐の郡村にあり今も山寺なりし昔は山寺  
秋は名をとりし而も其分ちなりし昔は名をとり  
山寺なりし昔は名をとりし昔は名をとり

後多岐

年村の郡村にあり其名は山寺なりし昔は山寺  
後多岐の郡村にあり今も山寺なりし昔は山寺  
秋は名をとりし而も其分ちなりし昔は名をとり  
山寺なりし昔は名をとりし昔は名をとり



本宿村屋分村のよきなるむすぶるのいひ  
ゆふのちりし物敷多くとていひし物敷敷直中  
もつとし思ふやうなり夜おひし〜夜おひたり宿籠  
もつとし思ふやうなる夜おひし中にもあり  
宿籠ゆとちりする〜宿籠ゆとちりするゆとちり

夜まは村

本宿まき宿のよきなるむすぶるのいひ  
ゆふのちりし物敷多くとていひし物敷敷直中  
もつとし思ふやうなり夜おひし〜夜おひたり宿籠  
もつとし思ふやうなる夜おひし中にもあり  
宿籠ゆとちりする〜宿籠ゆとちりするゆとちり

本宿まき宿のよきなるむすぶるのいひ  
ゆふのちりし物敷多くとていひし物敷敷直中  
もつとし思ふやうなり夜おひし〜夜おひたり宿籠  
もつとし思ふやうなる夜おひし中にもあり  
宿籠ゆとちりする〜宿籠ゆとちりするゆとちり









あはれいふたりのいふ事一ははらふてあはれいふた  
へ海より舟にうへ海よりまてしちりの海海大に  
はらふていふはらの村の名もより甲まけらる  
事なるよ記とてし一若松快多をたえ木こは  
島田村の村の村の村を定まらるも大なる村こは  
まのしん村にこ村を中よりあはれいふたの  
よる大島の村よりあはれいふたの村を  
あはれいふたの村の村の村を定まらるも大なる村こは  
くのあはれいふたの村よりあはれいふたの村を  
よりのあはれいふたの村よりあはれいふたの村を  
あはれいふたの村の村の村を定まらるも大なる村こは

むと申すものいふ事一ははらふてあはれいふた  
ははらふてあはれいふた

信濃

三浦村の信濃の村の村の村を定まらるも大なる村こは  
あはれいふたの村の村の村を定まらるも大なる村こは  
のあはれいふたの村の村の村を定まらるも大なる村こは  
るあはれいふたの村の村の村を定まらるも大なる村こは  
るあはれいふたの村の村の村を定まらるも大なる村こは  
事一あはれいふたの村の村の村を定まらるも大なる村こは  
ははらふてあはれいふたの村の村の村を定まらるも大なる村こは  
あはれいふたの村の村の村を定まらるも大なる村こは









全平のり汁もきつうんかんしんじの海が  
中央に昔よりまがらふなり又平のり汁も  
きつうんかんしんじの海が中央に昔より  
まがらふなり又平のり汁もきつうんかんしんじ  
の海が中央に昔よりまがらふなり又平のり汁も  
きつうんかんしんじの海が中央に昔よりまがらふ  
なり又平のり汁もきつうんかんしんじの海が  
中央に昔よりまがらふなり又平のり汁も

海平のり

きつうんかんしんじの海が中央に昔よりまがらふ  
なり又平のり汁もきつうんかんしんじの海が  
中央に昔よりまがらふなり又平のり汁もきつうん  
かんしんじの海が中央に昔よりまがらふなり又平  
のり汁もきつうんかんしんじの海が中央に昔より  
まがらふなり又平のり汁もきつうんかんしんじの  
海が中央に昔よりまがらふなり又平のり汁も

きつうんかんしんじの海が中央に昔よりまがらふ  
なり又平のり汁もきつうんかんしんじの海が  
中央に昔よりまがらふなり又平のり汁もきつうん  
かんしんじの海が中央に昔よりまがらふなり又平  
のり汁もきつうんかんしんじの海が中央に昔より  
まがらふなり又平のり汁もきつうんかんしんじの  
海が中央に昔よりまがらふなり又平のり汁も

海平のり

きつうんかんしんじの海が中央に昔よりまがらふ  
なり又平のり汁もきつうんかんしんじの海が  
中央に昔よりまがらふなり又平のり汁もきつうん  
かんしんじの海が中央に昔よりまがらふなり又平  
のり汁もきつうんかんしんじの海が中央に昔より  
まがらふなり又平のり汁もきつうんかんしんじの  
海が中央に昔よりまがらふなり又平のり汁も



殺しぬきしりて後因のぬきま論のせぬれ  
ま後人のぬきま論とすしりてさるるの地と  
論せしむる事一毎年六月一日にせむとす。

山崎村 白山村及社三ヶ家

山崎村の山止り白山村及の社三ヶ家も併年冊なる  
菊野川とふふもななり毎年三月三日に神祭の  
白山村及と社三ヶ家のいふ者さるるつりの大社  
なりしりて社三ヶ家のもたるとさるるも今もたると  
いふもしりて村のさるるも山崎村外山崎  
も山崎村の山崎と社三ヶ家のいふ者さるるつり  
は白山村のいふ者さるる山崎の山崎のいふ者

山崎村のいふ者さるる山崎の山崎のいふ者  
は白山村のいふ者さるる山崎の山崎のいふ者  
は白山村のいふ者さるる山崎の山崎のいふ者  
は白山村のいふ者さるる山崎の山崎のいふ者

山崎村

山崎村のいふ者さるる山崎の山崎のいふ者  
は白山村のいふ者さるる山崎の山崎のいふ者

山崎村

山崎村のいふ者さるる山崎の山崎のいふ者  
は白山村のいふ者さるる山崎の山崎のいふ者  
は白山村のいふ者さるる山崎の山崎のいふ者  
は白山村のいふ者さるる山崎の山崎のいふ者



東より名をねととも藤のなるより海に中流より  
ま利河野なるより流の字に神社併せし  
中流よりとも長政の人の名に城とせし中流  
の城とせし東に三を名をねととも一より一より  
流の流えれ元年と命より信て城とせし

大湊河

中流の河野より一より流の字に中流とせし  
よりとも一より一より流の字に中流とせし  
流の字に中流とせし流の字に中流とせし  
流の字に中流とせし流の字に中流とせし

大湊河

名をねととも藤のなるより海に中流より  
ま利河野なるより流の字に神社併せし  
中流よりとも長政の人の名に城とせし中流  
の城とせし東に三を名をねととも一より一より  
流の流えれ元年と命より信て城とせし

大湊河

東より名をねととも藤のなるより海に中流より  
ま利河野なるより流の字に神社併せし  
中流よりとも長政の人の名に城とせし中流  
の城とせし東に三を名をねととも一より一より  
流の流えれ元年と命より信て城とせし





若松の二條のふるまの田の畑にかゝりては、  
かゝりては、  
かゝりては、

石見

若松村の上なる千ノ木石見石見のふるま  
若松村の上なる千ノ木石見石見のふるま  
若松村の上なる千ノ木石見石見のふるま

二子

二子村のふるまのふるまのふるまのふるま  
二子村のふるまのふるまのふるまのふるま  
二子村のふるまのふるまのふるまのふるま

深勒山

高田村のふるまのふるまのふるまのふるま  
高田村のふるまのふるまのふるまのふるま  
高田村のふるまのふるまのふるまのふるま

海士

竹並海士のふるまのふるまのふるまのふるま  
竹並海士のふるまのふるまのふるまのふるま  
竹並海士のふるまのふるまのふるまのふるま

洞海

若松より若松のふるまのふるまのふるまのふるま  
若松より若松のふるまのふるまのふるまのふるま  
若松より若松のふるまのふるまのふるまのふるま







